

3 自動車排出ガス測定局における状況

自動車排出ガス測定局は、大分駅前の大分中央測定局、大分市宮崎の宮崎測定局の2局が設置されており、窒素酸化物、浮遊粒子状物質、一酸化炭素及び炭化水素の監視を行っている。

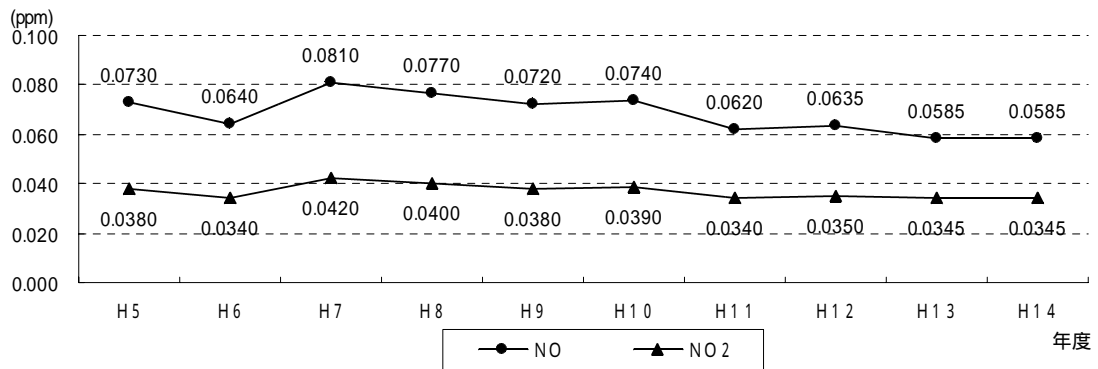
(1) 窒素酸化物

二酸化窒素の環境基準の長期的評価において、1日平均値の98%値は中央測定局で0.053ppm、宮崎測定局で0.049ppmとなっており、環境基準を達成している。

また、年平均値は中央測定局で一酸化窒素 0.067ppm、二酸化窒素 0.037ppm、宮崎測定局で一酸化窒素 0.050ppm、二酸化窒素 0.032ppmであった。

年平均値の経年変化を図1-27に示す。全体としてほぼ横ばいで推移している。

図1-27 窒素酸化物に係る年平均値の経年変化



(2) 浮遊粒子状物質

環境基準の長期的評価においては、2局とも1日平均値が2日連続で環境基準値を超えたことがあり、環境基準を達成出来なかった。

短期的評価においては、1時間値の環境基準値(0.20mg/m³)を、中央測定局で6時間、宮崎測定局で5時間超えていた。

表1-28 浮遊粒子状物質に係る測定結果の概要(平成14年度)

	中央測定局	宮崎測定局
年平均値 mg/m ³	0.034	0.035
日平均値の2%除外値 mg/m ³	0.075	0.077
1時間値の環境基準値(0.2 mg/m ³)を超えた時間数	6	5

平成10年以前は測定していない。

(3) 一酸化炭素

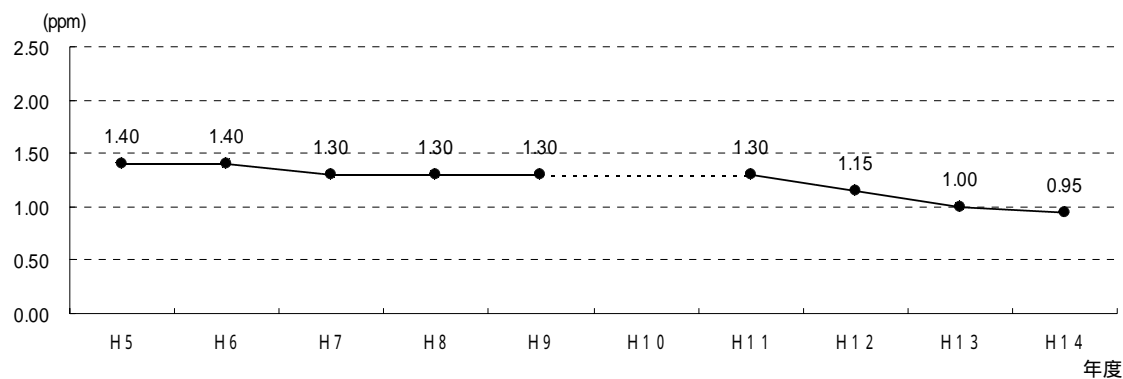
環境基準の長期的評価において、1日平均値の2%除外値は中央測定局で1.6ppm、宮崎測定局で1.5ppmとなっており、環境基準を達成している。

短期的評価においても、1時間値の最高値が中央測定局で3.8ppm、宮崎測定局で3.9ppmとなっており、環境規準を達成している。

また、年平均値は中央測定局で1.0ppm、宮崎測定局で0.9ppmであった。

年平均値の経年変化を図1-29に示す。近年は減少傾向にある。

図1-29 一酸化炭素に係る年平均値の経年変化



(平成10年度は欠測)

(4) 炭化水素

非メタン炭化水素における年平均値(午前6時~9時)は、中央測定局で0.31ppmC、宮崎測定局で0.27ppmCであった。

環境規準に準ずる濃度である非メタン炭化水素の指針値の上限(0.31ppmC)を超えた日数は、中央測定局で67日、宮崎測定局で117日である。

年平均値の経年変化を図1-30に示す。近年は減少傾向にある。

図1-30 非メタン炭化水素に係る年平均値(6~9時)の経年変化

